

みつくら

令和 4年 9月15日 第370号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

菅原マツノさん百歳で市から御祝い

向竈家の菅原マツノさんは大正11年(1922年)のお生まれで、今年4月27日にめでたく百歳を迎えられ、花巻市から御祝いが届けられた。菅原浩孝石鳥谷総合支所長が菅原さん宅を訪れ、上田市市長直筆の御祝いメッセージに添えて写真盾と花が贈られた。

記録に残る大瀬川ゆかりの百歳以上は、平成22年に千鳥苑入所者の藤根清見さん(八重畑)が104歳、平成23年の熊谷キョエさん(中田竈家)は100歳と1日で天寿を全うし、平成24年には惣助家生まれの八重樫ヨシさん(北寺林に在住)が100歳と15日、同じく野子家生まれの藤原キヨさん(大興寺に在住)が100歳と4ヶ月、平成25年に辻村スミ子さん(林家)は103歳と4ヶ月、平成26年には板垣愛さん(中谷地家)は百歳と11ヶ月であった。

コロナ禍で敬老祭の祝賀会中止

対象者が一堂に会する大瀬川地区敬老祭はコロナ禍により3年連続で中止となり、代わりに賀寿の方々のみの記念写真撮影と記念セレモニーが9月17日に大瀬川振興センターで行われる。75歳以上の対象者170名(男性64名、女性106名)には「令和4年度・大瀬川地区敬老のしおり」と記念品の小物入れポーチが民生・児童委員により配られた。

「しおり」によると今年の百寿は菅原マツノさん(向竈家)、米寿は菅原キワ子さん(向家)、熊谷珠子さん(田屋家)、熊谷安久さん(橋見家)、畠山松五郎さん(前畑家)、藤原玉子さん(上朴田家)、喜寿は中居竹次郎さん(千鳥苑)、熊谷美穂子さん(長四郎家)、板垣武さん(長助竈家)、板垣弘さん(森子竈家)、熊谷ミネさん(善助家)、畠山節子さん(天神竈家)が紹介されていた。

また子供たちからは御祝いのメッセージが菅原氷織さん(向竈家 中1)、菅原仁さん(治郎助家 小5)、菅原煌太さん(大工戸家 小6)、西館椿稀さん(西館家 小6)、板垣維吹さん(高田竈家 小4)、板垣龍さん(たばこ屋 小4)、畠山ひよ里さん(六盃家 小6)、辻村大

雅さん(久助家 小5)、玉山太一さん(パーマ屋 小6)から寄せられている。

タバコ屋さんが車屋を開業

板垣徹さん(タバコ屋)は令和3年の9月、自宅に「Tommys Car」(トミーズカー)を開業し丁度1年になる。

板垣さんは高校卒業後地元で就職したが、愛車のSUZUKIジムニーに魅了され、2年で退社後岩手県立千厩高等技術専門学校自動車科で2年間学び、2級ガソリン・2級ディーゼル整備士の国家資格を取得してSUZUKIディーラーに4年、NISSANディーラーに8年勤務し、国家資格の自動車検査員(車検を通す資格)も取得したが、ハイブリッド車やEV車の整備に面白味を持てず退社。その後、盛岡の自動車钣金会社で2年半塗装を学び念願だった自動車整備会社を起業した。板垣さんは「出来る事からコツコツと」をもっとうに「時代のニーズにあった車屋」を目指していると話していた。

今年度初事業で奉仕活動

大瀬川中央長寿会(菅原得之会長)では9月7日、女性会員3名と男性会員7名で大瀬川振興センター周辺の植栽剪定や草刈りの奉仕活動を行った。この日は、久しぶりの強い陽ざしで皆さん汗をかきながらの奉仕活動となった。今年は、玄關の上の屋根に草が生えているのを見つけたため、梯子を使い排水口の周りの土を取り除いた。ここの掃除は建物が出てから初めてではないかと思われる。この活動は、敬老祭に来られる人達に綺麗になった道を歩いてほしいと始まったのだが、かつてのような賑やかな敬老祭は今年も見送りとなった。

山祇神社境内の清掃が行われる

去る9月4日朝、山祇神社境内で7区の氏子37名が社務所の掃除や草刈りを行った。これは9月12日に行われる例大祭に向けての恒例行事となっている。また、境内の石灯籠が転倒していたが、山祇神社役員有志で基礎を新たにし、石灯籠を組直した。コロナ禍で2年間神輿渡御が行なわれていなかったが、今年は規模を縮小しての挙行となった。

道路にはみ出た桜の枝切り

葛丸の農村環境を守る会では8月6日、薬師堂川桜並木の枝切りを会員4人で実施した。これは、田植え機を積んだトラクターが通行する際など伸びた枝に触れるので除去して欲しいとの要望があったもの。

また、金鑄神社の十字路も、道路脇の雑木の枝が道にはみ出して見通しが悪く、事故が発生する心配があることから、桜並木と合わせてこれらの枝切りも行った。

海上水泳大会で快挙

7月31日第6回釜石オープンウォータースイミング(OW

S)が釜石市鶴住居町の根浜海岸特設会場で開かれ県内外から約230人が参加し、熱いレースが繰り広げられた。

日本水泳連盟公認で国体水泳競技OWSの県代表選手選考会を兼ねている大会に、7区新山の菅原瑠生君と菅原瑠香さんも参加した。時折、沖から吹く風で白波が立つ難しいコンディションに苦しみながらも懸命にゴールを目指し、素晴らしい結果となった。

菅原瑠生 1km男子の部 中学生

男女別順位:6位/56人中

年代別順位:1位/7人中

菅原瑠香 1km女子の部 中学生

男女別順位:7位/15人中

年代別順位:1位/5人中

一斉に浜辺をスタートする選手たちの様子が8月2日の岩手日報に掲載されていた。

表彰(敬称略)

花巻警察署長感謝状 交通安全協会大瀬川分会

岩手県防犯協会連合会長功労者花巻地区表彰 熊谷幸夫

県中学校学年別水泳大会(8月27日)

菅原瑠生 2年男子100m自由形2位

菅原瑠香 2年女子100m自由形1位

木ノ宮付近の高速道で競争馬輸送車が火災

9月5日付岩手日報に「9月4日に東北道で競争馬輸送車から出火」の記事が掲載され、場所は花巻市石鳥谷町大瀬川地内とあった。

事故は、水沢から盛岡競馬場に競争馬3頭を輸送中の大型トラックの前輪タイヤ付近から出火し、運転席が全焼したもの。幸い路肩に停車し、乗務員3人がそれぞれ馬を降ろして補助車線に避難し、人も馬も無事であった。

事故のあった場所は大瀬川8地割内で、木ノ宮家の北側の道路(市道大瀬川1289号線)を西へ上って行くと、高速道に「館山橋」が架かっているが、その真下にあたる。この道路はそのまま西へ進むと、大瀬川自生花菖蒲園の北側を通って旧温平家跡地、さらに畠山造園土木の庭木育樹場から千鳥苑に通じる歴史上の「安倍道」である。

この自動車火災によって、大瀬川の無火災も9月5日で途絶えた。

人事(敬称略)

花巻農協総代 畠山義弘、熊谷賢良、板垣正博、熊谷政男
 山王海土地改良区理事 菅原教雄

大瀬川公葬地管理運営委員会

委員長 板垣弘清(再)

副委員長 畠山幸男(新) 板垣博文(新) 畠山孝二(新)

みつくら

令和 4年 9月15日 第370号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

7区2班の通函に戦時中の配給記録

昭和4年から現在まで7区2班の行政班長（令和4年度は菅原孝三さん）の通函（かよいばこ）は蓋が付いた木箱（昭和4年に製作）で、縦1尺2寸、横6寸、高さ3寸5分あり、その中には大正12年の東京大地震（関東大震災の事）寄付帳、昭和20年（終戦時）の家族台帳や、配給記録、酒類買入帳、山祇神社の寄付割当、昭和30年代の健康保険税集金台帳などが納められている。

中でも興味を惹いたのは、酒類買入帳であった。昭和16年以降の買入帳で、表紙には「昭和16年12月以降」とあり、「稗貫郡石鳥谷町役場（「岩手県稗貫郡石鳥谷町役場」の角印あり）指定基本石数5斗8升 酒類買入帳 石鳥谷町大字第7区2班 西海地組隣保班長島山弥平治 指定酒類販売者菅原テフミ」とあった。表紙の裏には「通帳使用心得」があり、一、酒類ノ配給ヲ受クル場合ハ指定酒類販売店ニ通帳ヲ持参シ買入年月日、数量、価格ノ記入ヲ受クル事。二、隣保代表者ハ毎月三回配給ヲ受クル事。配給日ハ其ノ都度通知スルコト。三、配給ヲ受ケタル隣保代表者ハ之ヲ隣保中必要ナル者ニ配給スルコト但シ不時ノ必要ヲ生シタル場合ニ處スル為メ適当量ヲ隣保代表者ニ於テ保有シ置クコト。四、毎月ノ各隣保組宛テ配給石数ハ町村長ヨリ通知アル事コト。右ノ石数ヲ超ヘテ配給ヲ受ケ得サルコト。五、通帳ヲ亡失シタル場合ハ其ノ発見ニ至ルマデ配給ヲ行ヒ得サルコト。昭和16年12月花巻税務署 とある。記帳欄には年月日、割当数量、上・並区分（※級酒の別）、受配給数量、価格、摘要欄に印（テフミの字句印あり）。この記帳記録は昭和17年1月から昭和21年3月までだった。貴重な資料なので今後の保管を検討して頂きたいものである。

大瀬川でも大雨被害

8月は大瀬川でも大雨被害が発生した。8月13日の上堰（熊谷和紀さん宅脇）法面崩落で、8mの幅で被害が発生した。その土砂で水路が塞がれ市道旧大瀬川線に水が溢れ市道の南側斜面も崩れた。また、熊谷記彦さん宅南側の法面も約

10m崩落するなど大瀬川地内では2ヶ所が被害を受けた。他には大瀬川地内ではないが、大瀬川の方が耕作している開拓記念碑の北側の外谷地堰近くの水田法面12mが崩落、更にもう一ヶ所のジョイス北側の水田も法面7mが崩落した。先日の大隅智子気象予報士の講演によると、線状降水帯とは「次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞すること」で、これまでも多くの例があるが、実際に天気予報内でこの語句が使われたのは今年6月からという。

お盆中に避難所が開設される

7月は猛暑、8月は曇天と雨が続いた。8月15日16時46分花巻市に大雨警報が発令された。18時10分土砂災害警報が発令され、大瀬川振興センターに避難所が開設された。振興センター職員が帰った後に市の職員2名が来てダンボールベットや毛布を準備し避難者に備えた。大雨警報は直ぐに解除されたが、土砂災害警報は16日の20時15分に解除された。幸い大瀬川地区では避難者は無かったが、花巻市全体では10名、7世帯の避難が確認されている。8月は非常に雨の日が多く、大瀬川地内でも畦畔や法面崩落の被害が出ている。

訃報

○柳原魚屋の柳原正弘さんは、8月8日に74歳で亡くなりました。柳原さんは岩手郡巻掘村好摩（現在の盛岡市玉山区好摩）のお生まれで、生涯、卸売市場に勤務された方でした。柳原さんで思い出すのは8区行政区長を担われた平成11年に、石鳥谷ふれあい運動公園で開かれた全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会で8区は和歌山県の笠間高校を応援することになり、大会前に板垣光雄8区自治公民館長とともにその笠間高校を訪れて応援を申し入れたのも柳原さんだけでした。町内には46の行政区がありますが、担当の高校を訪ねたのは柳原さんだけで、他は電話でのやりとりだけでしたので、その情熱は、他に類を見ないものでした。他にも柳原さんは、南部藩に伝わる古武道の「諸賞流」を習っており流祖70代目で、昭和62年にはオーストラリアで演武し、その後の平成8年と9年に連続して日本武道館で行われた全日本古武道演武大会にも出場しました。また、大瀬川の消防団員としても活躍され、特に平成12年の地区内の火災では初期消火に尽くされたことで町長から感謝状も戴いた方でもありました。大瀬川の方が大変御世話になりました柳原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○堤田家の菅原利男さんは8月28日に77歳で亡くなりました。大瀬川のみならず、花巻管内でも多くの役職を担い活躍されていたのに残念でなりません。菅原さんで思い出すのは今から25年前の「大瀬川山林大火」です。生家の前ノ竈家への延焼を案じていたその時、旧田中堤西側の八重樫養豚場が燃えるとの伝聞で、近くにいた方々と協力して飼育豚を運び出した事でした。八重樫養豚場は、かつて、兄の菅原正志さんの菅原

養豚場でもあったからでしょう。後に「火事場の馬鹿力は何んとうだったヨ。近くにあって軽トラに豚を運んで来て乗せたんだから・・・」と話していました。

菅原さんは30歳頃までは酒屋働きをしていましたが、椎茸栽培をきっかけに出稼ぎを辞め、専業農家として活躍し多くの役職を担いました。特に農業共済組合への貢献は大きく、花巻地方農業共済組合の理事や岩手中部農業共済組合の監事、さらに石鳥谷町森林組合監事など、地区民から尊敬されていた方でした。身近な役職では大瀬川さんさ踊り保存会長や7区農家組合長など、私達が御世話になりました菅原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務室 お気軽にお入り下さい

○皆さん「ドローン」と言えば大体ヘリコプター式を思うと思います。先日、9区地内の田んぼ脇に車が停車して何か行なっているの見学に行った。すると、「今、花巻市内の農地をドローンを飛ばして耕作種類の確認データを撮っている」との事。上を見れば凄いい速さで何かが飛んでいる。あんなに高くて速く動いているドローンを操縦しているのかと訪ねると「予め範囲設定をしているので自動操縦です。ただ、離着陸の時だけは、危険なので手動で行います」と話していた。約10町歩ぐらいを10分程度で撮影し着陸した。見るとそのドローンは、翼にプロペラがあるセスナ機を小さくした翼が約1メートルほどの飛行機型だった。長所は、ヘリタイプより高度が高くでき、スピードも速いので作業性が良いとの事。この機種は全国に3台しかないとの説明があった。「ただ、山間地や林の多い場所では普通のドローンで行うため、それも積んでます」とも教えられた。確かに、ドローンは色々な形式で色々な利用がされており、これからも益々発展する機材だと感じた。

○水色の作業服で月1回訪れていた東北電力の電力メーター検針者が来なくなったことをお気づきだろうか。今、各家庭の電力メーターはデジタル化され、メーター内で円盤がクルクル旋回している姿が見えなくなった。各家庭の電力使用量はデジタル回線リアルタイムに電力会社に送られ総合的に監視されている。このスマートメーターの国内普及率は2024年度に100パーセントを目標としているという。

このデジタル化で電力会社は検針業務が簡略化されただけでなく、地域ごとの電力消費が素早く予測でき、効率的な発電を行うデータの取得や、家庭における異常な電力消費などにも戸別対応が可能となる。監視のデジタル化によってコストや業務の負担軽減のほか、利用者にとっても各家庭の使用量に見合った契約変更が簡単になり、最適な電気料プランの選択も可能になるということだ。

9月は防災の月。何気なく利用している電気だが、異常気象が頻発する昨今、あわせて停電時の備えも考えてはいるだろうか。